

学びの風便り

リーディングスクール通信 40 R7.3.31

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



特集！学びの改革のあゆみ 旭町中学校・まとめ

旭町中学校 「教師と生徒が共に創る学びへ」1年間のあゆみ

【まずは教師から探究してみる】

旭町中学校では今年度、「教師の手から生徒の手へ」と学びの主導権を移す、大きな挑戦の一年となりました。

まず、先生方が「探究」とは何か？という問いから、探究を学ぶことから始めました。夏休みに入っただけで、先生方は「チョコレート」を題材に探究を体験しました。チョコレートをじっくり見つめ、普段気づかなかったことから、もっと知りたくなっていく先生方。探究の芽は、身近にあり、観察すること、体験することによりそうだと感じました。また、探究の学びを進めるツールとして Canva を活用しようと考えた旭町中学校では、研修会を開き、夏休み中に先生方の紹介したいところを Canva で表現しました。Canva からイメージを広げ、ラーメン愛をポスターにしたり、地域の魅力を発信したりと、自らが主体的に学ぶ面白さを体感。「大人の学びは子どもの学びの相似形」と気づき、授業の中にも取り入れていきました。

【Canva 研修がもたらした学びの変化】

Canva 研修を機に、先生方と生徒の学びに大きな変化が見られました。教育課程研究協議会では、先生方が参観した生徒の姿を Canva にまとめ、生徒たちの学びの姿を様々な角度からとらえていました。「Canva でまとめる際に写真を使うため、今まで以上に生徒の表情に注目したり、生徒の声にもしっかり耳を傾けたくになります。」と教頭先生が語ったように、Canva を使うことで、先生方はこれまで以上に生徒の様子を細やかに観察するようになり、より充実した語り合いが行われました。

また、Canva 研修は先生方だけでなく、生徒の学びにも変化をもたらしました。学校説明会では、1年生が学校紹介を行うために Canva を活用し、説明会資料を作成しました。Canva のテンプレートや画像を自由に活用し、グループで協働しながら個性あふれる資料を作り上げました。生徒たちは Canva を使うことで、表現することの楽しさを知り、相手を意識した友との制作活動を通して、共に創る良さを体感していました。

【教師と子どもが創る学校へ】

旭町中学校は「教師と子どもが創る学校」という新たなステージへ進もうとしています。「MIH（妄想いっぱい話し合う）会」で教職員が学校への夢を語り合い、さらに生徒からも意見を募りました。「制服を無くしたい」「この前の道徳のようにクラスを超えての授業があったらうれしい」…大人も子どもも関係なく、学校を良くしたいという願いを共有し、共に創り上げる学校へと歩み始めました。さらに、来年度に向け旭町小学校との連携も考えています。

先日、両校の校長・教頭・教務主任・研究主任が集まり、子どもたちの9年間を見据えた教育について熱く語り合いました。「子どもたちが主体的に学び、自分たちの手で未来を切り拓いていく力を育みたい」「小中学校の先生たちが互いの学びを知り、子どもたちの成長を支え合いたい」そんな思いが共有され、来年度への期待が高まっています。



旭町中学校の一年間は、まさに変革への一步を踏み出しました。教師が学びの楽しさを感じ、生徒が主体的に学ぶ喜びを知った一年。そして、大人も子どもも共に手を取り合い、より良い学校を創ろうと決意した、希望に満ちた一年となりました。

実践校の「2年間の挑戦」から学ぶこと

リーディングスクール（LS）事業がスタートして、2年。一つの区切りの時期を迎え、この取組みにより、学校にどのような変化が生じたのか、先生方がどのような手ごたえを感じておられるのか、実際にお話を伺う機会を持ちました。

2月末～3月初旬、第1期の実践校（寿小、筑摩小、中山小、明善小、開成中、鎌田中、清水中、筑摩野中）に訪問し、校長先生、教頭先生、研究部の先生に加えて実践に取り組まれた若い先生からお話を伺いました。

訪問したどの学校でも、先生方から子どもたちの学びのシンカの様子、先生方の取組のシンカの様子を生き生きとお話いただき、とても楽しく刺激に満ちた時間を過ごさせていただきました。

お話を伺う中で、「学びの改革」を進められている学校の取組には共通のプロセスがあることに気がつきました。いわば「学校のシンカの要件」ともいえるもの。それを以下のようにまとめてみました。

1 目標と学びのビジョンの明確化

各校が「生徒主体の学び」への転換を目標とし、明確なビジョンを掲げてスタート。「自律・尊重」「探究的な学び」「主体的な学び」など、明確なコンセプトを掲げ、それを職員・児童生徒で共有して取組みを進めました。

2 職員研修の継続的な実施

定期的に職員研修を実施し、授業改善や探究的な学習の理解を深める取り組みを進めています。研修を通して教職員の意識変革が徐々に浸透していく仕組みが工夫されました。



3 教員間の対話・協働の活性化

教職員の対話の場が意図的に位置付けられ、教職員同士が授業や生徒について積極的に対話する機会が増え、協働で授業改善を進める文化が形成されました。

4 児童生徒主体の学習活動の実践と手応えの共有

探究的な学びや単元内自由進度学習を学校改革の中心に据え、全校で実践。具体的な子どもの変容の姿を手応えとして共有する機会が位置付けられました。

5 視察研修・講師招聘・ラボ・フェス等の活用

他校視察、外部講師による助言、他校との実践交流を通して、最新の教育情報を得て、自校の実践を高めるためのヒントを得ました。視察に行った先生たちが校内で自主報告会を開く文化も定着しました。



各実践校で、時に悩み、様々に試行錯誤しながら進めてこられた学校づくりのあゆみ。そこから抽出された「学校の取組をシンカさせる要件」は、かけがえのない学びであり、言葉としての表現が一見平板なものであったとしても、その内実を豊かなエピソードとして語りうる先生方の実感の積み上げこそ、本事業の大きな成果と考えます。

実践校から学ぶ「シンカの要件」は、私たちが「子どもが主人公の学校づくり」に踏み出す見通しを立てる上で、大いに参考になると信じます。松本市の多くの学校がLS実践校の取組に学び、実践の手応えを自校のものとして実感するあゆみを重ねられることを期待するところです。